

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷二十第

論說

地租に於ける特別税對附加税……………法學博士 神戸 正雄

歴史の本領……………法學博士 財部 靜治

ヘンリー・ジョージの土地國有論……………法學博士 河田 嗣郎

獨逸税制の發達を論ず……………法學博士 小川郷太郎

時論

米價安定と常平倉……………法學博士 戸田 海市

說苑

日本經濟史研究の必要と困難……………法學士 本庄榮治郎

世界貿易概観……………法學士 小島昌太郎

京都市小學校教員生計調査……………法學士 汐見 三郎

正常需要供給の動的考察と時の要素……………法學士 石川 興二

號別特

正常需要及供給の動的考察と時の要素

石川 興 二

序

經濟原論は云ふまでもなく、現實社會に於ける經濟現象を究明せんとするものなるが、而も此現實の經濟現象なるものは甚複雑なるものにして、人の力は直に之をとつて以て研究すること能はず、於茲、先づ最單純なる假想的條件の下に於て最單純且平明に之を研究し、然る後次第に其條件を現實に近かしめ、曩の單純なる研究の結果を更に現實に近き態様に於て發展せしめ、斯くて始めて實際の現象を明にせんとするなり。而して斯る方法は人が尙科學を有せざりし以前より、用ひ來りし科學的方法にして、經濟學も亦自ら此を用ひ來りしなり。

經濟原論中此方法の最顯著に見られるは、其理論の最複雑なる部門たる價格論に於てなり。而して價格論に於て此最單純なる假想的條件となりしものは所謂 Fiction of stationary state（靜止的状態の擬制）なるものなり。此状態に於ては經濟學ことに價格論の研究をして最困難ならしむべき時の要素の複雑なる影響を度外視すること得て、最單純平明なる研究をなすことを得るなり。されど靜的状态の下に於ける研究は、單により現實なる研究への過程にしてそれ自身としては現實の説明に甚縁遠きものなるが故に、我々は此靜的研究を土臺とし、更に一步を進めて動的狀

1) Marshall; Principles of Economics p. 366.

態の下に於ける研究に入らざる可らず。

價格論は云ふまでもなく、價格の決定に關する理論を究むるものなり。而して價格は需要と供給との關係によりて定まるものなり。故に靜的狀態の下に於ける價格論に於ては、價格決定の原因たる此需要及供給も亦靜的狀態の下に於て考へられ従てそは單純簡明なるものなり。故に動的價格論に進まんとすれば、先づ此需要及供給を動的狀態の下に於て考へざる可らず。

斯くて余は、茲に、動的價格論に入る前提として、先づ此需要及供給を靜的狀態の下に於ける考察に對照せしめて動的狀態の下に於て考察し、以て其動的性質を明にすると共にまた此に伴ふ複雑なる時の要素を明かならしめんと欲するなり。

一 動的考察の基礎

今此考察に進むに先つて、余がこゝに動的狀態と云へるものゝ意義を明にし置くことを要す。需要と供給との關係は、次の三つの立場に分つて考ふことを得。即ち、其第一は需要を決定する事情即ち需要側の事情と供給を決定する事情即ち供給側の事情との双方に何等變動なしと看做す立場なり、其第二は需要側の事情又は供給側の事情の一方に變化あり従て需要又は供給の一方が變動するも、而も之が爲に他の一方の事情に影響を及すことなしと看做す立場なり、其第三は需要側の事情又は供給側の事情の一方に變化あり従て需要又は供給の一方が變動する時、其變動はまた他の一方の事情に影響して此ものをも變動せしむると見る立場なり。²⁾

2) 河上博士、經濟原論 (大正二年初版) 第二二頁第三圖、
第二八—二九頁第八圖第九圖參照。
3) 同書第三三—三四頁參照。

而して余がこゝに動的状態と云へるは、即ち、此第三の場合にして、これまた現實の状态なるが故に、⁵⁾余は、より現實なる價格論に入らんが爲に、先づ此動的状態に於て需要及供給を考察せんとするなり。而して余は此状態に於ける考察を次のものと區別して動的考察と云ふなり。而して此動的状態に對して、第一及第二の立場を、余は、茲に靜的状态と云ひ、この状態に於ける考察を靜的考察と云ふ。⁶⁾

此意味に於ける動的状態の靜的状态に對する根本的の相違は、需要側の事情の變化と供給側の事情の變化との相關々係と云ふことなり。而して此の両事情の變化の相關々係と云ふことは、動的考察の基礎たるものにして、動的考察の靜的考察に對する相違は總て此點より生じ來り、而も其相違は甚大なるものなり。即ち靜的状态に於ては、需要側の事情の變化と供給側の事情の變化とは相關係せざるが故に、需要及供給の關係は甚單純にして、假令需要又は供給の一方に變動あるも、その他の一方に全く關係なきものとして考へられ、從て需要及供給の性質其ものも亦極めて單純なるものとなる。

然るに動的状態に於ては、需要側の事情の變動と供給側の事情の變動とは相互に影響す、即需要側の事情に變動ありて需要が變動する時は生産要具生産方法等供給側の事情に變化を生せしめて供給を變動し、また供給の事情に變化ありて供給の變動する時は、貨物の使用に關する人々の性質習慣等需要側の事情に變化を生せしめて需要を變動す。於茲、動的状態に於ては、需要の變動は必ず供給の變動を惹起し、供給の變動はまた必ず需要の變動を惹起し、即ち両者は動的關係

5) 河上博士經濟原論第三三頁 Maashall; Principles p. 368.

6) Bullock; The Variation of Productive Forces. Quaterly Journal of Economics. Aug. 1902. p. p. 489-490 參照。

を保つなり。斯く、動的状態に於て、需要供給の關係が動的となる結果は、また、需要及供給のものをして、靜的状态の下に於ける固定的且單純なるものと異なり、大いに動的且複雑なるものたらしむ。これ動的考察の第一の特徴なり。

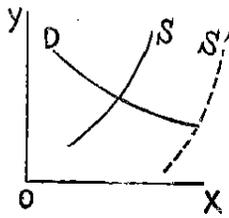
動的考察の基礎たる需要及供給の事情の變化の相關々係の結果、上述の動的性質の外、尙茲に注意すべき動的考察の一特徴あり。これ動的状態に於ては、複雑なる時の要素を考慮せざる可らずと云ふことなり。即ち、動的状態に於ては、需要又は供給の一方の諸事情の變化は他の一方の諸事情に影響して之を變化せしむるものなるが、而も此他方の事情に對する影響の結果は生物的成長をなすが故に其現實には相當の時間を要し且其要する時間は其諸事情の異なるにより各々相違あり、更にまた其短期間に於ける直接の影響と長期間に於ける影響とは屢々相違す、斯くて、需要及供給は時間的の關係を有するに至ると共にまた需要及供給そのものがまた時間的性質を有することゝなるは以下述るが如くなり。反之、靜的状态に於ては、需要及供給の事情の相關々係を認めざるが故に、斯くの如き複雑なる時の要素は入り來らざるなり。

以下論せんとする動的考察に於ける態様が靜的考察の場合に於ける態様とは甚異なり且遂に複雑となるは、即ち以上の動的状態の二特徴たる需要及供給の事情の相關々係と之に伴ふ時の要素とに基くものにして、また此二特徴に十分注意することにより之を説明することを得るなり。而して余は先づ需要につきての考察より論を進むべし。

二 需要に就き

(A) 供給が増大する際に於ける需要曲線

余は以下總ての説明に當り、之を解り易からしめんが爲に、圖形を並用せんと欲するが故に、茲に一言之につき述べ置かんとす。ミルが需要につき適切に Meaning, by the word demand, the quantity demanded, and remembering this is not a fixed quantity, but in general varies according to the value ⁶⁾と云へるが如くに、需要及供給は價格の相違するに従つて相違し行く貨物の分量にして即價格と物量との函數關係なり。此相異なる各の價格と其各の價格に對應する物量とを表に示めせしものは所謂需要又は供給の目録⁷⁾にしてまた之を圖形を以て示めず時は、普通上圖に於けるS曲線又はD曲線の如く曲線を以て表はさるゝこととなる。即ち此等曲線上の總ての點は、OY線を距る垂直の長さに於て需要又は供給せらるゝ貨物の分量を表はらし、またOX線を距る垂直の長さに於て其物量に對する需要又は供給價格を表はすものなること云ふまでもなし。⁸⁾



次に動的考察に於ては、前述せし如く、需要及供給は動的關係を保つものなるが故に、需要及供給の一方の性質を明にするには、之を他の一方の變動に關連せしめて考察することを要し、而して需要又は供給の變動とは或需要又は供給の示す價格と物量の關係が其總てを通して其變動することにして即需要又は供給目録そのものが其全體に渡つて變することなり。故に需要又は供給の

6) J. S. Mill; Principles of political Economy. Asliley's ed. p446

7) demand schelude. supply schelude. Marshall; Principles p. 96 参照、

8) 河上博士經濟原論第二〇頁第一二二頁参照。

増加とは總ての價格に於て需要又は供給せらるゝ物量の増大することにして、之を圖に表らばS又はD曲線が右へ移動することなり、從て之を價格につきて云へば總ての物量に對する價格の下落することなり。需要又は供給の減少とは、之とは全く反對の變動なり。即圖につきて云へばD又はS曲線が左方へ移動することなり。而してこゝには先づ、供給の増大する場合に於ける需要の性質より考察せんと欲するなり。

今供給の事情が變動して供給價格が下落せし時即ち前掲の圖に於て供給曲線Sが左方S'曲線の方へ移動する時には、之に應じて其貨物の需要せらるゝ分量が殆ど總ての場合に於て増大するものなることは云ふまでもなし、故に需要の状態を圖に表らばD曲線の如くに右に進むに従ひて下に低り行く曲線即消極曲線の形をとるなり。この事は其靜的狀態に於けると動的狀態に於けるとにより異なることなし。されど動的狀態に於ては、靜的狀態に於けると異なり、供給側の變動は需要側の事情の變動を伴ふが故に、動的狀態に於けるものには次に述べる二つの特徴を生ずることとなる。

先づ、供給價格の下落に伴ふ需要量の増大は、動的狀態に於ては特に次の二原因より緩除ならしめらるることとなるなり。即ち、其第一は貨物の使用につきての人の習慣性に關するものにして、或階級の人々が今日まで其價高かとして十分に用ひざりしものが、今安價となりたりとするも、其階級一般の人々が此使用に慣れ其需要量を増大するまでには相當の時日を要するものにして、先づ其階級の鋭敏なるものが其使用を始め、他のものは暫時之に習ひ、斯くて其階級一般に其貨物

を使用する習慣を生じ、茲に初めて十分なる需要量の増大を見るに至るなり。更に若し其價格の下落せし貨物にして、例へば瓦斯等の如く、之を使用するに當り他の補助財を要するものなる時に於ては、茲に其需要の増大を更に緩徐ならしむべき第二の原因あり。即ち瓦斯の價格下落せし時其需要が徐々に増加せられ、之に伴ひて瓦斯使用に關する諸用具が改良せられ其生産が標準化 (Standardize) せられ其價安くなるに至り斯くて初めて十分なる瓦斯の需要量の増加を見ることを得るなり。而して殆ど總ての貨物は其使用に當りて、其程度の大小の相違はあれ、皆此意味に於て補助財を要するが故に其需要量の増大は更に此第二の原因より遅らさるゝことゝなるなり¹⁰⁾

即ち動的状態に於ては、供給の増大は常に需要側の事情の變動を伴ふと考ふるものにして、從て此新しき需要側の事情の成立を待つて初めて、十分なる需要量の増加は生ずるものなるが、而も此需要側の事情の變化なるものは、上述の二原因より相當の時間を要するが故に、價格の下落が需要量の増加を伴ふにはまた相當の時間を要するなり。於茲動的状態又は實際の状态に於ける需要目録又は曲線は先づ時の要素を含むことゝなる。此に反して靜的状态に於ては供給の變動は何等需要側の事情の變動を伴ふことなしと考へらるゝが故に、斯る事情の變動に要する時間を特に考ふることを要せざるなり。

從つて茲にまた、動的状態に於ける需要目録又は曲線の第二の特徴あり、これ其が需要側の事情の變化を意味し居ることなり。即ち需要目録又は曲線の示めず價格と物量との關係は、靜的状态に於ては總て同一の需要側の事情のもとに於けるものなり、然るに動的状態に於ては供給の變動に

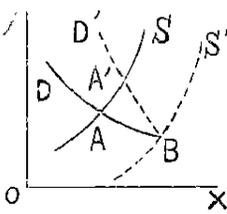
10) Marshall; Industry and Trade pp. 185-6 參照

11) 河上博士、經濟原論第二五頁參照。

伴ひ變動し行くそれぞれ異なる需要側の事情のものゝもとに於けるものなり。これ動的考察の需要並供給曲線の著き特長にて、此より種々複雑なる事情を生ずること以下述るが如し。

斯くの如く動的状態即ち現實の狀態に於ける需要は靜的狀態のそれとは甚其性質を異にし時間動的のものなり、故に靜的の考へを以て實際現象に臨まんか、我々は充分之を明にすることを得ざるなり、而してこのことは供給につきても同様なり。されど需要の考察にあたりて時の要素事情の變動を無視するの害は、之を供給曲線の場合に比すれば尙甚小なりと云ふべし。是れ價格の下落せしが爲に。其物が反て用ひられざるに至ると云ふ特別の場合を除けば、價格の下落は、常に需要量の増大を來たすものにして、即ち需要曲線は供給曲線と異なり、總ての貨物に就き、常に一樣に消極曲線の形をとり、且其弾力性につきて見るも、長き期限に於て大なる弾力性を現らはず貨物は、短き期間に於ても亦、大なる弾力性を現らはずを以てなり。¹²⁾

B) 供給が減少する際に於ける需要曲線



靜的考察に於ては我々は供給の増大する際に於ける需要の狀態を表らはず需要曲線と供給の減少する際に於ける需要を表らはず需要曲線とは何等相違なきものと思ふ。即ち上圖に於て云へば供給がS線よりS'線に増加せし結果需要量がA点よりB点に増加し、然る後に、供給が再びS'よりSに減少する時には、之に伴ひて需要量は再びBよりAに減少するものにして、従て價格も供給が一度増大せしことなき以前と同一なる點に定まるものと思ふ。これ前述せしが如く靜的考察

12) Marshall; Principles. p. p. 455-456. Marshall; Industry and Trade. p. 186.

に於ては供給が増大せし際に於て需要側の事情に變化の生ぜしことを考へざるが故なり。

然るに動的状態又は現實の状态に於ては、供給が増大せし時に於ては需要側の事情に變化を生ずるを以て之と全く異なる結果を生ずるなり。即ち前述せしが如く供給が一度増大し換言せば供給價格が一度下りて人々が漸次其貨物の使用に慣れて需要量を充分に増大せし時に於ては、既に其貨物に對する人々の性質が變化せり即ち需要側の事情に於て變動を生ぜしなり、故に然る後に於て其供給價格が再び以前の如くに騰貴するも、今は人々は以前の如くに其使用量を減少することなきなり。斯くて供給が増大し行く際に於ける需要の狀態を表らばせしD曲線は、供給が減少し行く際に於ける需要の狀態を表はさずして之よりも高きD'線が之を現らばすこと¹³⁾なるなり。従つてまた價格も以前のA點とは異なりて、A'點に於て定まること、なるなり。動的考察に於ては、斯の如く、供給の増大し行く際に之に伴ふ需要を表らばす曲線と其減少し行く際に之に伴ふ需要を表らばす曲線とは異なるものにして、これ余が需要曲線の動的考察をなすにあたり供給の増大する際と其減少せる際に分ちし所以なり。余は以下之を區別し前者を需要の前進曲線と呼び後者を後退曲線と呼ぶ。こは供給につきても亦同様なり。

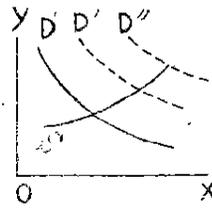
三 供給に就き

次に、進んで供給曲線に就きて考ふべし、此際に於ては需要曲線の場合に於けるよりも遙に、時の要素及動的性質に注意することを要すること前述の如し。

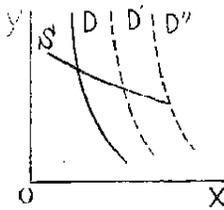
13) Marshall, Principles. p. 807.

(A) 需要の増大する際に於ける供給曲線

(一) 先づ述べべき顯著なることは、需要曲線なるものは曩に考察せし如く常に同一性質の曲線即



消極曲線の形をとれども供給曲線は之と異なり、増大されたる需要の時間的性質により全く其曲線の性質を變動することゝなるなり。即ち上の右圖に於て需要がDよりD'の方向へ増大したる時、其が短期間に於て供給に及ぼす影響は右圖に於けるが如く供給曲線をして積極的曲線（即ち右に進むに従ひ上りに行く曲線）の形を呈せしむることなり。然るに此増大したる需要の性質にして長期間に渡りて繼續するものなる時には、正に反對に左圖に於けるが如く供給曲線をして消極的曲線の形を呈せしむることゝなるなり。



今此理由を明ならしめん、茲に突然銃獵が非常に流行し始め、獵銃の需要が突然激増したる時に於ては、假令材料の缺乏なき場合に於ても、企業家は此増大したる需要に應ずるが爲に、或は其業に特別の熟練なき労働者を高き賃銀を支拂ひて其業に引き入るゝことを要し、或はまた自分自身の努力をも緊張せしむることを要する等、一時は其生産の實質費用も貨幣費用をも共に高めざるを得ざるなり、而して此生産費の増大する度合は、需要の増大する度合大にして従て之に伴ひて増大する供給の増大の度合大なる程大なり、例へば、急速に供給することを要する百萬挺の銃の注文は、同一の十萬挺の銃の注文よりも高價に引き受けられざるを得ざるなり、前掲の右圖につきて之を云へばD'の需要に應ず

る供給は、D'の需要に應ずる供給よりも、其生産費大にして従て供給價格大なり、斯くて供給曲線は積極的の形を呈することゝなるなり。従てまた需要の増大は價格の増大を來すことゝなるなり。このことは、殆ど總ての生産物につきて例外なく行はるゝところにして、供給曲線の性質に關する最も普遍的の法則なり。假令長期間にありては、之と反對に消極的供給曲線を呈する貨物即ち所謂收穫遞増に従ふ貨物にありても、短期間に於ては一樣に然らざるを得ざるなり。¹⁵⁾

然るに今この獵銃の流行が長期に渡り従つて増大されたる需要が長き間持續せらるゝに於てはそれは短期に於けるとは全く反對の影響を供給に及ぼすことゝなるなり、即ち、一方、各工場は此増大されたる需要に應せんが爲に其生産規模を増大する結果、各々自己の工場を改善し、分業を發達せしめて特殊化せられたる労働其他の生産要具を適當に組合せ、其生産を標準化し(standardize)有利なる市場に販賣する等、各工場自身の事情に屬する所謂内部經濟(internal economies)を發達せしむる傾向を生じ、更にまた他方、其工業全體としての生産規模が増大せらるゝ結果、其工業の諸方面に特殊化せられたる熟練労働、精巧なる機械、各工場間に於ける分業の發達等、其工業全體としての事業に屬すべき所謂(external economies)を發達せしむる傾向を生じ、而して各工場は、内部經濟の場合と異り、自己の工場の大小に拘らず此外部經濟の利益を享ることを得。即ち此二種の生産經濟の發達により其生産費は次第に小となる。而して其小となる割合は、持續せらるゝ需要が大にして従て供給の増大せらるゝ、度合大なる程大なり。斯くて供給量の大きな程其供給價格は小となることゝなる、之を前掲の左圖について云へば持續せらるゝ需要がD'なる時はD'

(15) Marshall; Principles p. 454

なる時よりも供給價格は一層小となり斯くて供給曲線Sは短期の場合とは反對に消極的に傾くこととなる、從てまた需要の増大は價格の下落を來すこととなるなり。斯くてまた時なる要素を考慮することなく單に需要増大すれば價格騰貴すと云ふが如きは誤となるなり。

茲に特に注意すべきは、動的状態に於ては、需要又は供給の一方の事情の變化が他の一方の事情に影響を及ぼして之を變化せしむるに當り、短期間に於ける直接の影響と長期間に於ける影響とが相違することありと曩に述べしことなり、即ち此際に就きて云へば、需要の増加と云ふ同一原因は其時間の短かきに於ては未だ十分に供給の事情の變化に對する其影響を現實すること能はず、即ち、其生産要具そのものを支配することを得ずして單に現存する生産要具の使用を増大せしむることのみによりて供給量を増大せしむるなり、¹⁵⁾從て其生産費及供給價格は増大せざるを得ざるなり。然るに長期間に於ては、供給の事情の變化に對する其影響を十分に現實して、生産要具そのもの、存在量及性質を増大されたる需要に適合せしめまた生産組織を改善せしめ即ち内外の經濟を發達せしめ以て其供給量を増大せしむるなり。從つて其生産費及供給價格は増大することなく反て減少することとなるなり。

要するに此際に於ては、供給曲線は増大された需要の繼續する時の長短により其性質そのものを變動せしむるものにして最もよく其動的性質の特徴を現らはし從て時の要素を重すべき最も重要なる場合の一なり。

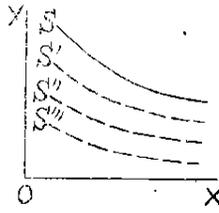
今之を靜的考察の場合に對照するに、靜的考察に於ては、需要の事情の變化に伴ふ供給の事情

の變化を度外視するが故に、積極的供給曲線と消極的供給曲線との相違は、主として貨物の性質の相違に基くものとして考へられ、斯くの如く、需要の變動が供給の事情を變化せしむるが爲に働く時間の短き時に於て、總ての種類の貨物につきて生ずる積極的の供給曲線と云ふが如きものは特に考へらるゝことなきなり。

(二)次に此長期に於ける消極的曲線の性質に就きて考ふべし。

供給曲線が長期に渡り消極的の形を現はすは、前述せし如く、増大されたる需要の性質が永續性のものである時は需要の増大に伴ひて増大されたる生産が永續し之につれて供給の事情たる内外諸種の生産經濟が發達するが爲なり、されば其増大したる需要の性質にして永續的のものなる程、生産の増大は永續し従て其生産經濟は益々發達して生産費漸次に遞減し従つて、其供給價格が愈々低下し行くことゝなるなり。即ち消極的の供給曲線は上の圖に於けるが如く愈々低下し行くことゝなるなり。

此際に於てもまた前の場合に於ける如く、我々の特に注意すべきことは、動的考察に於ては、需要の大いさと云ふことが生産の事情を變動せしむる度合に影響し以て供給と密接なる關係を有するのみならず、更に需要の性質、即ち其需要の永續性の如何と云ふことがまた生産の事情を變動せしむる度合に影響し以て供給を變動せしむるに密接なる關係を有することゝなるなり。斯くて動的考察に於ては需要の大きさと性質とが共に供給と密接なる關係を有することゝなるなり。



然るに動的状態に於ては更にこゝに、此消極的供給曲線をして一層動的ならしむべき事情あり、即ち、大規模生産の經濟なるものは其生産物を生産しつゝある當該産業の範圍のみに起ることは稀にして、其多くは此産業と相關連する諸種産業の群に渡つて起るものなり、従て其生産經濟發達の事情は之を此等諸種産業の事情に關連せしめて、初めて、充分に考察することを得るものなり。而して今若し或産業が自己の生産物に對する需要の増大起りし結果、自己産業の生産用品を供給する此等諸種産業に對して自己の需要を増大し、其結果此等諸種の産業の生産經濟を發達せしむることとなる場合に於ては、一層安價に此等のものより自己の生産用品を受くることとなり、従つ自己の生産物を一層安價とすることを得て其需要は更に増大することとなる。斯くて更に其生産量を増大する、結果は自己産業の生産經濟を更に發達せしむるのみならず、再び其關連する諸種産業に對する、自己産業の生産用品の需要を増大し此等産業の生産經濟を更に發達せしむることにより更に安價に其供給を得、従て一層自己の生産物を安價ならしめ更に其需要を増大することとなる。斯くの如くにして、繰返されて進み行くことにより長き期間に於ては、供給曲線は漸時に非常なる低下をなし従て價格は非常に下落することとなるなり。¹⁸⁾

(三) 以上は専ら所謂生産費遞減の法則に従ふ産業 (Increasing return industry) に就きて云へるものなるが、此産業にありても其原料は結局之を農業鑛業等に求めざる可らず。此等兩産業は上述せる産業とは異なり、新開國其他特別の場合を除きては一般に、收穫遞減法則に従ふ産業 (Diminishing return industry) にして、其供給曲線は長期にありても短期に於けると同く積極的に傾く

18) Marshall; Industry and Trade. p188. 參照。

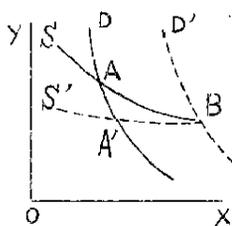
ものなり。而して此長期に於ける積極的供給曲線は、其程度收穫遞増的産業に於ける程大ならずと雖ども、而も尙同様の動的性質を帯ることゝなるなり。

即ち收穫遞減的産業にあつて供給曲線が長期間に於ても尙は積極的の形を呈する理由は、此産業にありても收穫遞増的産業に於けると同様に長期間に於ては其生産を増大するにつれ内部及外部の生産經濟發達するも、而も生産の増加に伴ふ自然の抗抵力が増大がそれ以上なる爲に、結局生産の増大は生産費を増大し行く結果を生ずるが故なり。而も尙はこの内外の生産經濟の發達は増大されたる需要が永續し従つて増大されたる生産又は供給の持續する期間の長さにつれ次第に發達すること曩に收穫遞増産業につきて述べしと異ならざる故に、其長期間に於ける供給曲線は積極的の形をとりながら而も漸時に低下し行く傾向を有すること、また收穫遞増的産業に於ける消極的の曲線と異ならざるなり。

(B) 需用の減少する際に於ける供給曲線

余は以上供給曲線を需要が増大する際に就き考察せしが故に、次に需要の減少する際に就きて考察すべし。

我々は靜的狀態に於ける考察に於ては、曩に需要曲線に就きて述べしと同じく、需要の増大する際に於ける供給を表はす曲線即供給の前進曲線と需要の減少する際に於ける供給の状態を表はす曲線即供給の後退曲線とは同一なりしと考ふるなり、即ち上圖に於て需要がDよりD'に増大し之に伴ひて供給がAよりBに前進



せし後、再び需要がDよりDに減少せし時には、供給は再びBよりAに後退し、供給曲線には何等變りなきものと考ふ。是靜的考察に於ては需要の變動に伴ひ、供給の事情には何等變動生ずることなしと考ふるが故なり。¹⁹⁾

然るに實際に於ては此際S曲線はそれより低きS'曲線によりて置き換へられ従て價格は以前より安きA'點に定まることとなる、即ち需要に於て前進曲線が高き後退曲線を以て置き換へられしとは反對なり。而して此ことは長期に渡る供給曲線に就ては一樣に實事にして、其供給曲線が收穫遞減の産業に於ける積極曲線たるを、また收穫遞増の産業に於ける消極的供給曲線たるにより異ならざるなり、されど此ことはまた後者に於て殊に顯著なり、即ち後者に於ては前進の曲線は前者に於けるよりも一層低き後退の曲線を以て置き換へられ従て新に決定せらるゝ價格A'は前の價格よりも非常に安價なるものとなるなり、而してこは實際問題としても甚重要なることなり。前進の供給曲線が低き後退の曲線を以て置き換へらるゝ所以は、前述せし如くに、需要の増大が永續し之に應じて生産の増大が永續せし時には、孰れの産業に在りても、内外の生産經濟發達を來し、而して一度發達せし此生産經濟は、其後に於て生産量を減少する必要を生ずるも、全々失はるゝことなく或程度までは同じく利用せられ従て新に縮少されし供給は、供給が増大せられしことなき以前の同量の供給よりも遙に廉價に生産し得らるゝこととなるを以てなり。即ち一度供給増大せらるれば供給事情が前とは異なり、假令再び供給減するも供給の事情が前の事情に復することなきを以てなり。而して此傾向が收穫遞増的産業に於て最も著しき所以は前述せし如くに生産の増大に伴ふ内部及外部經濟の發達がこのものにおいて最も大なるが爲なり。即ちものにあ

19) 河上博士、經濟原論第一七七頁—第一七九頁參照

20) Marshall; Principles p. 808 參照

りては前進曲線は前者に於けるよりも一層低き後退曲線を以て置き換へらるゝこととなり、從て新なる價格Aは Δ より非常に低きものとならざるを得ざるなり。

而して收穫遞増の産業に就き斯く供給の減少する時は、場合によりては劣等なる生産者が其生産より退き以て其限界生産費は次第に小となり、從て此後退の曲線Sは積極的曲線の形をとることもあり得れども、また、供給減少するにつれ内外の經濟は全々失はるゝことなしと雖も尙其程度を減するを以て、生産費は次第に大となり從てS'曲線は消極的の形をとること多かるべし。

以上供給につきて述べしところを要するに、供給曲線をして動的時間的ならしむるものは、需要の變動に伴ふ供給の事情の變化なり。而して(一)先づ短期と長期とに渡りて此供給事情の化變は其度合を異にするが故に短期の供給曲線と長期の供給曲線とは其性質を異にし(二)又長期の供給曲線にありても需要の増大の繼續する期間の長き程益々供給事情の變化は進行するが故に其曲線は次第に低下し行き、(三)更にまた所謂收穫遞増の産業の長期の供給曲線すら同様の理由によりて低下し行く、(四)而して供給の進前曲線と後退曲線との異なるも此供給事情の變化あるが爲なり。

結 論

余は、以上第一段に於て正常需要及供給の動的考察の基礎を考へ、第二段及第三段に於て此基礎の上に立ちて正常需要及供給を動的に考察し、以て、それが、需要側の事情の變化と供給側の事情の變化との相關々係と云ふ動的考察の基礎の爲に如何に動的、且時間的のものとなりまた複雑なるものなるかを明にせり。而して序に於て述べし如く、此等動的考察は動的價格論の前提として意義

21) Bullock; The Variation of productive forces. Quaterly Journal Economics. Aug, 1902. p. 508. 參照

22) Marshall; principle. p. 809 參照

を有すべきものなる故に余は茲に以上の動的考察の特徴を顧みると共に其動的價格論に對する關係に一言し此論を終へんと欲す。

第一に先づ時間的特徴より述へんに、需要供給の一方の變動が他の一方の事情に影響して變化を起さしむることは動的考察の基礎なるが、この事情の變化は生物的成長をなすを以て茲に時の要素入り來る。需要及供給は曩にミルの語を引用して述べしが如く普通、價格の變動するに従ひ變動する物量として二次元の函數として考へられたり、されど今や動的考察に於ける正常需要及供給は更に之に時の要素を加へて考へられざる可らざること明となれり。殊に所謂收穫遞減の法則に従ふ貨物の正常供給は、むしろ價格と時間との異なるに従ひ、變動する物量として、即ち價格と時と物量との三次元の函數として表はさるゝことを要するなり。従つて之を圖形に示めす時は二次元の函數の平面に表はされ得るとは異なりて立體に表はされざる可らず。是れ前述せしが如く、此貨物にありては、生産事情の變動の度合最大にして、短期と長期とに於て供給曲線の性質そのものを異にし、また長期に於ける供給曲線も其期間の長きに従い次第に低き形をとり、斯くて時の要素を離れては、其供給の性質を考へ得ざるが故なり、而も此三次元としての、正常需要及供給の考へは、動的考察に於ける他の正常需要及供給につきても或程度まで重せらるべきものなることを忘る可らず。

此時間的特徴の動的價格論に及す影響は同じく時の要素をして價格論中の重要な要素たらしむることなり。而して此時の要素が價格論をして最困難ならしむるものたることは前述せし如し。

第二に動的特徴につきて述べんに、動的考察の基礎たる需要供給の事情の相關々係の結果、需

23) J. S. Mill; Principles p. 446

24) Marshall; Principles of Economics pp. 809-810. 參照

要供給の關係は動的となり従て需要供給そのものも動的となる。於茲價格決定の論理は遂に動的のものとなり、また價格決定の根本命題とせられしもの、實現性に影響を及す。

即ち、正常價格決定の根本命題は由來 Cost of production governs value と云ふにあり即ち Adam Smith は The commodity is... sold... for what it really costs the person who bring it to market と云ひリカルトウまた交換價格の基礎を主として勞働に置キ²⁵⁾ミルまた things must on the average exchange for another in the rate of their cost of production と云へり。されど此等の命題は靜的狀態に於て最適なるものなり。即ち此等命題の成立する所以は貨物の實際の供給量が、需要價格と供給價格とを平均せしむる點に即ち均衡量 (equilibrium-amount)²⁶⁾に一致せんとするに依るものなるが、靜的狀態に於てはこのことが最も容易なるなり。即靜的狀態に於ては需要及供給の事情相互の間に變動關係なきを以て、需要及供給の目錄又は曲線は比較的不變にして斯くて需要價格と供給價格とを平均せしむる點も比較的不動にして従つて供給量は此點に一致し易きなり。之に反し動的狀態に於ては需要及供給の事情相互に變動し合ひ従て需要價格と供給價格とを一致せしむる點も其度毎に變動し、従て供給量は此點に一致し難く、斯くて此際此命題は大いに緩和せらるゝこととなるなり。

第三に動的考察に於ける複雑性につき述ぶべし。靜的價格論に方ては、(A)需要につき一つの消費曲線を考へ(B)供給につきては、貨物の性質に従いて、(1)生産費を増大するも其供給を増大し得ざる貨物に於ける垂直なる供給曲線(2)生産費一樣なる貨物に於ける水平なる曲線(3)生産費遞増する貨物に於ける積極的なる供給曲線を考へられ或は更に(4)生産費の遁減する貨物に於ける消極

25) Adam. Smith; Wealth of Nations, (edited by Cannan) p 33.

26) Ricardo; political Economy (edited by Gonner) pp. 7-8 p 65 等、但リカ
ルドウは Profit をも考慮せり Ibid p. 40.

27) Mill; Principles p452

28) Adam Smith; Wealth. p. 64 Ricardo; Political Economy. p 68. Mill;
Principles. pp. 451-3

29) Marshall. Principles. p345参照

的なる供給曲線が考へられ、價格決定は主として此等四供給曲線の場合につき考へらる。

然るに動的考察に於ては、其基礎たる需要供給の事情變動の相關關係の結果甚複雑となりて、(A)需要に就き(a)前進曲線(b)後退曲線(B)供給に就き(a)前進曲線に就き(1)短期間に就きて總ての貨物に關する積極的線曲(2)長期に就きてイ收穫遞増的產業に就きての消極曲線(ロ收穫遞減的產業に就きての積極的曲線(後退の曲線が考へられたり。

此價格論に及す影響は、價格の決定が靜的考察の場合に於けるよりも多くの此等の場合に就き考察せらるゝことを要することとなり而して此中特に注意すべき場合の其一はB(a)(2)に擧げし收穫遞増的產業の長期に於ける消極曲線の場合なり。是れ此場合は最動的なる場合にして且價格決定理論の最困難なる場合なるを以てなり。其二は(B)(a)(1)に擧げし短期間に於ける積極的供給曲線の場合なり、是れ、靜的價格論に於て見られざる、短期の正常價格論が茲に考察せられ正常價格は短期のものゝ長期のものゝに分ちて論せらるゝことゝなるを以てなり。³⁰⁾

之を要するに靜的狀態の下に於ては價格論は平明簡易となれども現實の現象を十分に説明するに足らず。之に反し需要及供給の事情の變動の相關々係と云ふ動的狀態の立場に立つ時總ては動的的時間的となり、複雑となるも、而も初めて現實の現象に適切なるものとなるなり。

附言、以上余は正常需要及供給につきてのみ考察したるなり、市場價格に關しては、需要及供給の性質が、動的狀態に於けると靜的狀態に於けるとにより、異なることなきが故に之を考察せず。また正常價格論には、こゝに考察せし長期の正常需要及供給の關するものよりも更に非常に長期の正常價格論なれども、このものにおいて、總ては當然動的なるが故にこれらもたゞに考察せざるなり。³⁶⁾

30) Mill; Principles pp. 444-445 參照 云ふ迄もなく彼の時代には圖形を以て示さるゝことなきされど彼の語を圖形に示めせば斯の如し、尙彼にありては收穫遞増の場合明に區別せられ居らず。
31) Marshall; Principles BKV Ch. XII. 參照
32) Ibid. BKV ch V 參照 Chapman; Outline of Political Economy Ch XVII 參照
33) Marshall; Principles p. 379. BkV Ch XII